1面からのつづき

●●●金　章●●●

善行金章を受賞して

宮城県仙台市　本郷　泰弘

善行会員として十五年、この度、栄えある特別善行金章を賜り心から御礼申し上げます。

定年後、町内仲間防犯実働隊を結成し、月二から四回、町内一巡の夜間パトロール及び小中学生の下校時の安全指導を継続しています。

また、宮城県日中友好協会植林団員として、年二回、十五年間吉林省にての植林に参加し、日中友好の輪を築いてまいりました。

音楽好きの仲間とバンドを編成し、ハワイアン、カントリー、ムード歌謡などで福祉施設や各種イベントを年十～十五回の演奏会をこなしていますが、一年前よりコロナ禍で、総てのイベントが休止となり、巣ごもりの状態になって居ります。

今後共、善行会員の名に恥じぬよう、町内の安全、安心の明るい街づくりに貢献してまいります。

●●●金　章●●●

お年寄りとふれあって六十年

東京都江戸川区　塚本　邦昭

この度は、栄えある特別表彰金章の栄を賜り誠に光栄でございます。

二十歳の時、ボランティア芸人と知り合い、縁ができ、その知人らと共に高齢者施設へ芸能慰問をし、二十五歳の時、新聞の片隅の五行欄に「老人ホームを芸能ボランティアで慰問しませんか」の募集に入会し、以来今日まで健康に恵まれ、六十年家族の理解、良き仲間等に恵まれ、土日祝日のみ関東一円の高齢者施設を専門に年間五十五ヶ所余公演し、現在一九一五回、二〇〇〇回公演を目指しております。

あすなろ会、左　眞紀一座、平均年齢八〇.五八歳、一施設年一回の公演ですが、長い所では、十年以上、二十年、三十年のごひいきの施設が関東一円に四十か所余、お互いに長いお付き合いで顔なじみができ、舞台上では、「クソババア」「クソジジイ」と言える仲に、公演を重ねる事に一人欠け、二人欠け、淋しい限りでもございます。

この度の金章受賞を機に更なる受賞の名に恥じぬようボランティア活動を精進して参る所存でおります。ありがとうございました。善行会の益々のご発展を念じております。

●●●銀　章●●●

温かい手と手

千葉県市川市　川島すみ子

この度、令和三年度特別善行銀章を賜り、心より御礼申し上げます。

私が、一人で施設に伺うようになったのは十六歳で、学校の休日だけでした。その頃の老人ホームは入居者に笑顔はなく、部屋は暗くて廊下に排泄物が山積みになり、スタッフも疲れきっていて慢性的な人手不足でした。

その後、私の子供たちが大きくなり、趣味を探してマジック教室に通うようになり、その先生の紹介でボランティア慰問チャリティーバザー等の経験をする事ができました。

私の演芸はマジックと伝統芸能、そしてそれは、お客様参加型のステージ、和、洋、踊れるマジシャンを今後も続けていきたいと考えております。

私に協力を惜しまない家族に感謝です。大きなキャリーバックを引いてでこぼこの坂道を上がり満員電車、バスを乗りついで足や腰が悲鳴を上げた日が昨日の事のようです。

施設利用者様、スタッフの方々の温かい「手」忘れません。ありがとうございました。

●●●銀　章●●●

感　謝

三重県御浜町　大家　正伸

「自分が生きること」に多くの人が関わってくれていることを自覚したのは、阪神淡路大震災で両親を失い、祖父母の住む地方に転校して来た子供たちと出会った頃であり、そこから私の慈善活動は始まりました。

震災から間もない二月、自家栽培のみかんを家族の力を得て採集し、現地へトラックで輸送させて頂きました。あれから三十年近く、年中みかんの採れる紀州の地で一へクタール程のみかん園に二十種類のみかんを栽培し、時節に応じて被災地や施設等に送らせて頂くようになりました。

『自然の恵み、土・水・空気、大事にしたい』との文辞の看板を掲げ、現在の自分が存在することに感謝しつつ、ご恩返しの旅を続けております。

こうして細やかな活動に対し、この度の特別表彰は歓喜の気持ちで胸が満溢となりました。今後も感謝の気持ちを心に刻み活動の励みにいたしたく思います。

ありがとうございました。

ふる里自慢

北海道網走支部

支部長　磯江　良三

オホーツク文化の遺跡

北海道の網走と言えば、今なお「地の果て」のイメージが濃いのではなかろうか。事実この地に定住し越冬して農業が始められたのは明治十三年であった。しかし、それは本州の和人が住み着いた歴史であって、実はそれよりも千三百年も前から住み着いていた集落があったとは驚きではないか。それが「オホーツク文化」を築いた人々で、発見された地名を取って「モヨロ人」と名付けられている。

この遺跡を発見したのは後に日本のシュリーマンと称せられる米村喜男衛(よねむらきお え)青年であった。時は大正二年九月四日の事であった。米村は一介の理髪職人ながら、神田に住み、鳥居龍蔵の知遇を得て、独学で考古学の知識を蓄え、思い切って北海道へ渡り、網走にたどり着いたのである。

翌朝、網走川の河口に向かって歩いてゆくと、高さ二、三十メートルの砂丘があり、その断面いっぱいに貝塚が露出している、巨大な貝塚を発見した。土器の破片を調べると縄文系とは全く違うものだった。のちに「モヨロ貝塚」と名付けられる きっかけを発見した瞬間であった。

この遺跡は戦後間もない昭和二十三年と二十六年に登呂遺跡と並ぶ大規模な発掘が行われて今年で七十周年になることを記念し、「モヨロ貝塚館」で「記念回顧展」が開催され資料が展示されている。

ここに居住していた「モヨロ人」とは、今なお謎多きところが多いが、アイヌ民族とは全く違う北方民族である。おそらく樺太あたりから南下してきた北方民族であろう。その墓域や居住あとはモヨロの杜として保存され観光スポットとして公開されている。

本州に住む人々にとっては、人跡未踏の北の果てに見えたこの土地も、さらに北方に住む人々にとっては、南端の温かい楽園であった。一度この杜に立って悠久なる時の流れと物の見方を考えてみて欲しい。

会員の声

長野県長野市　伊藤　ひで

青色パトロール、平成十八年に認可をいただき、始めてから十六年になります。地域の子供たちが安全に通学できるよう、下校時、青色回転灯を装着し、声かけをしております。当初学校帰りの子供たちが悲惨な事件に遭う事が多く発生し、未来を担う子供たちは、地域で守ろうと始めました。顔なじみになり、子供たちから励まされる事も多く、元気をもらっています。大きな声で返してくれる子、はずかしそうに丁寧におじぎをしていく子、性格の相違を感じながら、また、次の子供たちと出会います。

グループで帰ってくるので、どちらからも声かけやすく、だんだん慣れていくようすも伺えます。

回転灯を装着しての活動は、地域防犯にも貢献しているのではないかと思います。

まだまだ、無理をしないで、継続していこうと思います。